

福島を散歩する

明治二十一年の地図より

私の手許に、首題の地図がある。

これは末信氏の先代が測量し、実に精密に作り上げたもので、その当時の福島の有様を、今に見る事が出来る。

その当時は、現在のたの部、よの部に住宅が点々と建てられている。

濁池村に隣接して、最初の家は、た一番の福里次郎吉さん、その後ろの二の二に山田與三郎、三番地には中西津右衛門、四・五番地には萩原仁三郎、で六番地は耕地になっている。

湊本源次郎は八番地で、七番は耕地である、十の一には木戸平三郎、十の二は、道を挟んで前の、村上傳朔である。

萩原氏の西側と日吉神社の南側からの流れが、たの三十二の荒木源三郎さんと十二番地の今村津右衛門の間を流れて、荒木長兵衛、酒本勘七さんの南側を、印内村を擦って西川に注いでいる。

この河は、子供心には、凄いほどの急流であった記憶がある。

十三番地は吉原間右衛門、隣の十五番地は犬丸仁太郎、十六番地は浜平勘次郎さんで、大浜の浜平さんである。

日吉神社の参道はこの時分には既に道路に面しており、隣の十八番地は、犬丸仁太郎さんの縦長い地所になっている。

福島村全圖

